

指導教諭 M.K

急速なグローバル化により、国際教育の必要性が更に高まっており、社会課題に関する広い視野を持ち、多様な文化に対する相互理解を深めることが重要視されている。本校では生徒の英語力向上や国際感覚の育成などを通してグローバル人材の育成に取り組んでいる。日本語をはさまない専門英語表現の獲得法や、グループ討論・ペアワークを通して大学レベルの授業を体験する機会を提供し続けている。

1) 5年目を迎えた「学内留学講座」プレゼンテーション大会の概要

2016年7月9日(土)より10月8日、12月10日、2017年1月14日と全4回の日程で実施したこの講座は、168名の生徒の参加を得た(ビジネス学:28名、教育学:28名、法学:27名、心理学:30名、環境学27名、天文学28名)。1月14日(土)の最終回では、各専攻の中から1グループずつが選出され、多目的ホールにて、プレゼンテーションを行った。各科目担当ネイティブ講師より学内留学を通して優秀な成果を残すことのできた生徒の選出を行い、表彰。また、最後に、参加した生徒全員へ学内留学修了証の授与が行われた。以下に各講座内容の概略を示す。

教育学担当 ピーター先生



法学担当 ダレン先生



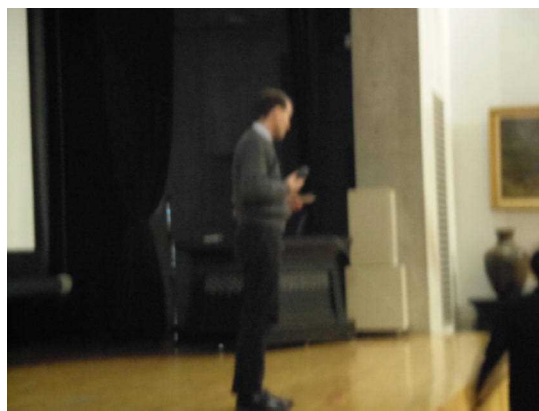
ビジネス学担当 ランス先生



心理学担当 クレイグ先生



天文学担当 ジョッシュ先生



環境学担当 ノエル先生



概要

(Business Course ビジネス学)

テーマ: 基礎となるビジネス原理について学び、アクティビティや、事例を通して活用する。授業を通してディスカッションやグループワーク、及び分析能力を以下の内容をもとに習得を図る。

- ・独占競争
- ・ビジネス環境分析
- ・マーケティング(市場調査)

取り組み課題: ミニプレゼンテーションと、メインとなるプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションはグループで行い、各グループはそれぞれの事例(市場調査からどのような商品が、どのビジネス環境でニーズがあり、ビジネスとして成功しているか、このような商品がどのような戦略で販売されているかなど)を発表する。

(Education Course 教育学)

テーマ: 教育に関する3つの分野(VAK: Visual視覚・Auditory聴覚・Kinesthetic体感覚)を理解し、それぞれを使って授業を行い、事例などを参考に学習する。下記内容に基づいてグループワークをはじめとした、さまざまなアクティビティに取り組む。

- ・VAK(視覚・聴覚・体感覚)学習スタイル
- ・さまざまな知性について

- ・協力・協調性をもたせる学習

取り組み課題：プレゼンテーション（個人）、グループプレゼンテーションの2つのプレゼンテーションの準備と発表を行う。

1. VAK（視覚・聴覚・体感覚）を使った授業から1つを選び、授業の紹介及び、分析と解説を行う。
2. グループでVAK（視覚・聴覚・体感覚）を使った授業から1つを選び、指導内容を作成し、体験授業を実施する。この体験授業による学習影響や指導のメリットなど発表する。

(Law Course 法学)

テーマ：法律に関する専門的な語彙を増やし、論理的に自身の意見を発言できるような学習を行う。授業の中では、生徒同士のディスカッションを通して以下のことを学ぶ。

- ・刑法
- ・倫理
- ・契約法

取り組み課題：実際の裁判が行われた事件を見つけて裁判の内容を調べ、クラスで発表する。さらに、その事件の評決を分析し、自身の見解や考えを伝えるためのプレゼンテーションに挑む。

(Psychology Course 心理学)

テーマ：心理学の一般分野について学習する。心理学がどれほど幅広い分野に及ぶかを理解し、消費者心理などの下記トピックについて、具体的な事例などを通して学ぶ。また、ペアワーク、アクティビティを通して学習する。

- ・消費者心理（セールスの心理学）
- ・行動心理学（イワン・パブロフ紹介）
- ・社会心理学（消費行動）

取り組み課題：ショートプレゼンテーションと、コーステーマに基づいたメインプレゼンテーションを行う。下記トピックについて、リサーチと観測（データ収集）などを行う。

- ・パブロフの犬（条件反射・行動心理）について
- ・コンビニの商品陳列（消費者心理）
- ・人気アーティストのCDジャケット

(Environmental science 環境学)

テーマ：地球を取り囲む環境について学ぶ。さまざまな事例をもとに、基礎科学を通して再生可能エネルギーや環境問題（酸性雨や温暖化がどのように発生するのか）などについて学ぶ。

取り組み課題：環境に関連するさまざまなテーマのプレゼンテーションを行う。グループに分かれて、リサーチとプレゼンテーションの準備をし、授業で提示された問題・課題や下記トピックに基づき、プレゼンテーションを行う。

- ・再生可能エネルギー（太陽光・水力・風力など）
- ・水の循環と水質汚染
- ・酸性雨
- ・地球温暖化と温室効果

(Astronomy 天文学)

テーマ：太陽系の構成（惑星・準惑星など）がどのようにしてできたかや、1つ1つの惑星（水星・金星・地球・火星・木星・土星・海王星・冥王星）について学習する。地球からの距離（光年）や、どのくらいの大きさなのかの計算などに挑戦する。また、過去に起こった隕石落下などの事例なども知り、惑星が及ぼす影響などを学ぶ。

取り組み課題："Solar System Debris（太陽系の破片）"についてのグループプレゼンテーションを行う。下記7つのトピックをもとにグループに分かれ、それぞれのグループが調査・研究した異なる課題について発表する。

- ・小惑星の紹介
- ・彗星の紹介
- ・流星、隕石
- ・彗星の影響と崩壊
- ・ニューホライズンズミッション
- ・彗星探査の任務 - ロゼッタとスターダスト
- ・小惑星の影響 - Tunguskaとチェリャビンスク

まず第一回目については、心理学の講義というよりいかにして効率よく授業を受けるかについてのレクチャーがメインで、先生の学生時代の教訓を生かす形でメモのまとめ方や先生への質問の仕方を学びました。これは日常の中でもいかにして技術をこなすかと思いつきながら聞いていたわけですが、うれしいことに、この初回のレクチャーが伏線だったかのように後の授業で何回もこの「技」を使用する機会があったので、これははじめは予想していなかったことでした。

続いて第二回目の講義についてですが、この頃からみんなは最終回のプレゼンテーションを意識し始めていたように思えました。この回で主に学んだことは、心理学の専門用語と、心理学と商業<主にスーパーマーケット>との関わりについてでした。前者の方は、予想していた通りちんぷんかんぷんなところが多かったのですが、それでも先生が簡単な単語を選んで解説して下さいだったので、下手に日本語で辞書のように解説されるよりよっぽど理解できたように思います。後者の方は、これは私たちの日常生活と関係のあることだったので、英語もすらすらと飲み込めたと議論も活発に行うことができました。また、これは最終回のプレゼンテーションに直接関わってくることでありましたので、みんなも真剣なまなざしで議論や作業に取り組んでいたように思います。

第三回目、これは四回目の本番の準備会といった印象が強かったのですが、同時に私がドッキリにかけられた回でもありました。その日は講義で人間の行動を心理学的に分析した行動分析学についていくつか教えてもらいましたが、私は頼まれた用事を済ませるために一人で出て行き、帰ってきたところで突如そのうちの「同調」についての実験にかけられました。すると、不覚にも私は講義で見た過去の心理実験の映像と同じようにそっくりそのまま周りとの行動を合わせてしまい、周囲が自身に与える影響について、身をもって実感することになりました。一番印象に残った回にもなりました。

最後に、プレゼンテーションの準備についてですが、一言でいうと、「大変」でした。まず私たち心理学のグループは、自分たちで商品を企画し、それをいかに売り出していくかについてプレゼンしなければならなかったもので、みんなで悩みに悩みました。しかし、ひとたび案がまとまるとどんどん話は進み、これまでのなかで一番くらいに質のいいプレゼンテーションをつくれたように思います。非常に有意義でためになる時間をすごすことができました。とても楽しい半年間でした。

I took part in the "Gakunai-Ryugaku" program expecting to experience learning in an all-English environment again like I did when I lived in the United States. I was longing to find an opportunity to learn in English ever since I moved back to Japan two years ago. There were only four sessions and it is true that it wasn't much of a time for me to brush up my English. Yet, I did learn a lot from this program. As the year long program has ended, I would like to reflect what I have learned here.

The most valuable lesson from the course was the skills necessary for making good presentations. We made a presentation each time, by starting off with a general topic first and then advancing to more technical topics. Our biggest one was a 10-minute presentation with a slide show that we prepared in pairs and presented in front of the class. It was a big challenge for me to present my ideas about the topics in a clear and understandable way. Since I had had very limited opportunities of presentation before taking this course, the process of picking an interesting topic, researching about it, organizing the material I wanted to share, and preparing a complete presentation gave me motivation and helped me discover what I needed to do to improve my ability. I realized that this was a very crucial skill which was not limited to English but could work equally well for Japanese. I would like to use this opportunity to also improve my presentation skills in Japanese, which will probably also be important in the years that will follow.

At the Closing Ceremony, one group from each course presented their accomplishments in front of all the students and teachers attending Gakunai-Ryugaku. Unfortunately, my pair was not chosen to represent our course, but I enjoyed watching presentations by our course and other courses as a part of the audience and was amazed at how people from each course, even people who normally said weren't confident with their English, prepared excellent presentations. There were also many strategies taken in those presentations that made them visually attractive and easy to understand, such as using pictures or diagrams or keeping the text short and simple in the slides they made. I tried doing this in the slides for my presentation but since it didn't end up to be as good as the ones I saw, I want to try incorporating some of the strategies that were used there in the next presentation I make.

Although the entire course was operated in English, honestly I couldn't really feel like I was "back in the United States again", like I wished. However, I will definitely recommend this program to anyone as long as they are interested in it at all and

they are prepared to spend a lot of time and effort for it. There is a feeling of excitement in this that is different from normal English classes, and it will probably help you improve your English skills, especially speaking or listening skills. The assignments given after each class may require a lot of time commitment, but I believe that it is worth a lot, given that you have a chance to learn something new and become more tolerant to talk about your ideas in English. I think that in order to "master" a language, it is important to place yourself outside the classroom and apply it in various situations. For example, it should be helpful to use that language to learn something new, think in the language and speak about what you learned. In fact, Gakunai-Ryugaku offers all of that. I strongly hope that Kitano High School will continue offering this program to future students so that they can acquire many skills that could certainly help them even after they have graduated. Finally, I would also like to show my gratitude to the instructors who spent so much time to provide this opportunity to us.

受講生の自己評価集計（別紙）